

論文審査の結果の要旨

“Prevention of lipopolysaccharide-induced peritoneal damage by eplerenone in rats undergoing peritoneal dialysis” (by Yosuke Tayama et. Al., Journal of Nephrology)

本論文に対する博士号審査は H25 年 12 月 10 日 8:00AM より本部棟 1F 大学院講義室において開催された。まず本論文が英文誌 Journal of Nephrology に掲載されており、書類手続きならびに倫理性にも問題のない事が確認された。

腹膜透析患者において細菌性腹膜炎の発症は、腹膜機能劣化から腹膜透析中断に至る重要な危険因子である。本研究は、腹膜炎発症時の腹膜障害に対するミネラルコルチコイド受容体 (MR) 遮断薬である eplerenone (Ep) の効果を検討したものである。

研究内容として、Lipopolysaccharide (LPS) 間欠投与により細菌性腹膜炎と同様な腹膜障害を惹起し、腹膜透析液中に Ep を 4 週間投与、非投与群との腹膜障害の変化を比較した。その結果 Ep 投与群では TGF β や ED-1 陽性細胞数が減少し、腹膜の肥厚も減少した。それに伴い腹膜平衡試験 (PET) による腹膜機能も改善した。

この論文に対して論文要旨発表の後に質疑応答が行われた。基本的な問題点として、本研究は LPS 誘発性の腹膜炎を用いたものであるが、これは腹膜炎モデルとしては一般的ではない点が指摘された。また腹膜組織の採取部位が壁側腹膜であり腹膜劣化が生じやすい臓側腹膜でない点、組織標本の処理方法に関して幾つかの問題点が指摘された。次いで PET 等のデータに関しても幾つかの疑問点が指摘された。さらに臨床現場とこの実験結果の関連性に関しても質疑が行われ、基本的な内容も含めた質疑応答が行われた。これらの疑問点に関して十分な解答を得られない点もあったが、今後も検討を行い明らかにして行きたいとの事であった。

以上のような議論をふまえて、現在の論文にはまだ幾つか不備な点はあるものの、質問に対して真摯に答えている点、さらに申請者の学識、人格、発表態度、臨床研究の実施能力などをふまえて、総合的に判断して埼玉医科大学医学博士の称号にふさわしいとの意見で一致した。最終的に審査員全員一致で医学博士に「適格」と判定した。